

フネンパイプシリーズ
フネン吸気弁

FUNEN

フネン吸気弁

POINT

耐火
二層管

メジフリー

信頼性

施工性

高機能

スウェーデンのドルゴ通気弁^{*}を採用し、これに耐火性能を持たせました。

スウェーデンでは1974年から、日本では1985年から使用され、安定した性能は他の追随を許しません。

(^{*}スウェーデンDURGO社の商標です。国内では、森永エンジニアリングのライセンス生産です。)



● 用途

➡ 排水立て管の屋内通気処理

● 特長

省スペース

耐火構造の建築物においても、排水立て管の屋内通気処理が可能です。

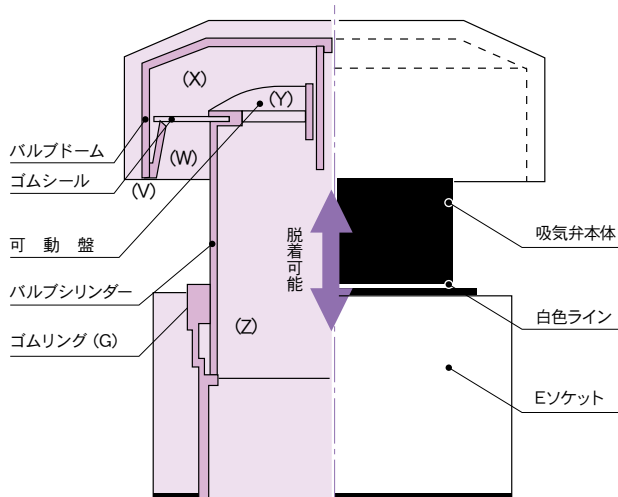
実績と信頼

内管には実績と信頼の“ドルゴ通気弁”（森永エンジニアリング製）を採用。安心してお使い頂けます。

メンテナンス性

Eソケット付き（特注125Aを除く）なので、施工・メンテナンスが容易です。

● 構造・材質



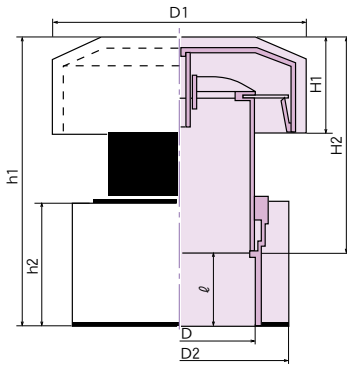
■ 構造

- フネン吸気弁は左図のように、バルブドーム・バルブシリンダー・可動盤・ゴムシール・Eソケットにより構成されています。
- バルブドーム内 (X) は可動盤のスポーク開口部 (Y) に沿ってバルブシリンダー内 (Z) に通ずるとともに、可動盤にセットされたゴムシールを介してバルブシリンダーの開口部 (W) から大気 (V) に通じています。
- 吸気弁本体は、ゴムリング (G) を内蔵したEソケットに装着されています。
注：AV-125にはEソケットは装着されていません。

■ 材質

- 吸気弁本体、Eソケット／ABS樹脂（アクリロニトリル・ブタジエン・スチレン共重合樹脂）
- ゴムシール／EPDM（エチレン・プロピレン・ジエンターポリマー）
- ゴムリング／CR（ネオプレンゴム）

● 規格



記号 品名	D	D1	H1	H2	D2	h2	h1	ℓ
AV 40	48.3	102	47	104	80	55	129	22
50	60.3	102	47	104	89	58	132	25
65	76.4	136	54	116	110	68	154	35
75	89.4	158	62	133	129	73	176	40
100	114.5	193	65	122	155	83	175	50
125	140.0	230	82	160	—	—	—	—

※ AV125 (受注生産品) にEソケットは付帯しておりません。
納期等は最寄の営業所にお問合せください。



使用上の注意事項

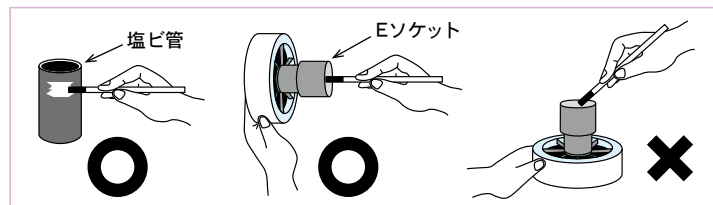
1. **バルブドーム部分は絶対に分解しないでください。臭気漏れ等の原因となります。**
2. 設置に際しては後述の「設置方法」・「設置場所」を良くお読みいただき、正しくご使用ください。誤った使い方をされますと、本来の性能を発揮できない場合があります。
3. 設置前にゴムシール部分に、ごみ等の異物が付着していないことをご確認ください。臭気もれ・異音発生の原因となる場合があります。また、本体に付属の取扱説明書を良くお読みいただき、施工完了まで適切に養生してください。
4. 保管・取り扱いの際は、本体に強い衝撃が加わらないようにしてください。破損の恐れがあります。
5. 設置基準等のより詳細な技術資料は、森永エンジニアリング(株) (<http://www.morieng.co.jp/>) にご請求ください。

● 設置方法



- AV40～100はEソケットセット品です。
本体とEソケットは脱着可能ですので点検・交換も短時間で行えます。

Eソケットの下流側と接続する塩ビ管を接着接合します。Eソケットに接着剤を塗布する場合は接着剤が吸気弁内部にたれないよう、吸気弁を逆さにして接着剤を塗らないでください。



■ 本体脱着方法

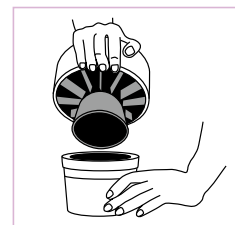
取外し方法

バルブドーム部片側を交互に押し上げながらEソケットから抜き取ります。



取付け方法

白色のラインまで押し込みます。挿入がしづらい場合は、水を付けて押し込んで下さい。吸気弁を新品に交換する際は、Eソケット内のゴムリングも一緒に交換してください。



注 ⚠️ 意

排水管の高圧洗浄

洗浄方法によっては、過大な圧力が吸気弁にかかり不具合の生じる恐れがありますので、十分注意してください。

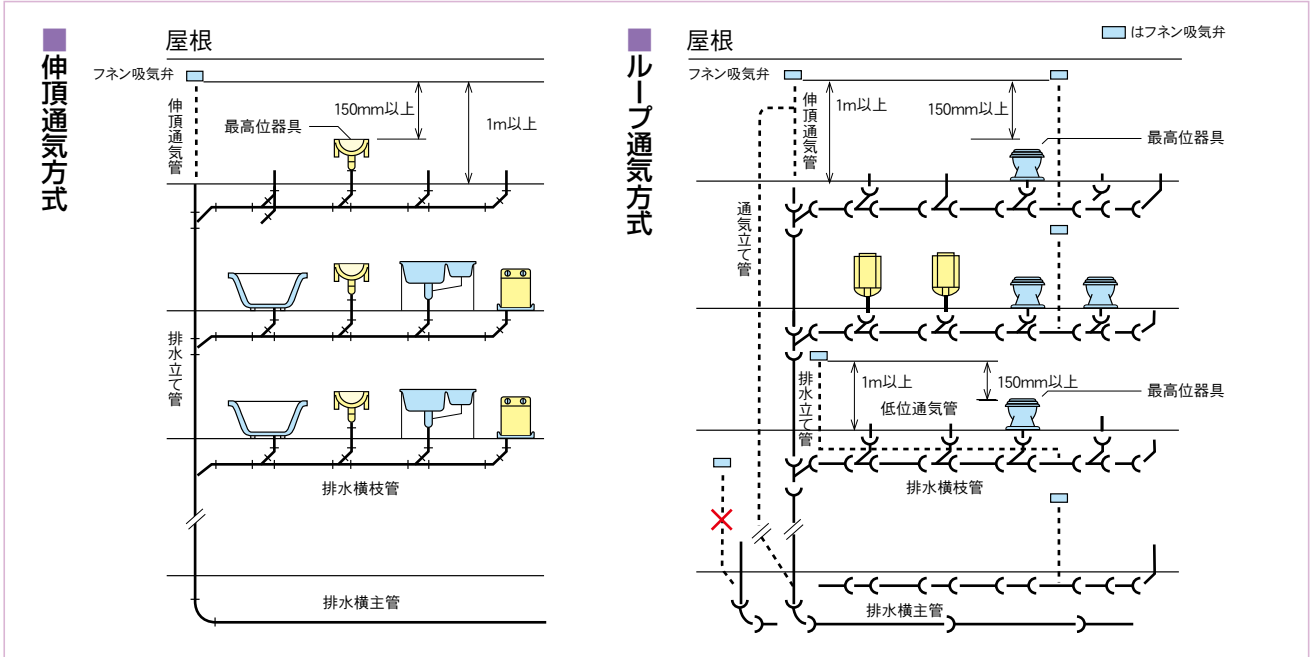
● 設置場所

- フネン吸気弁は横向きに設置すると機能が発揮されません。必ず、ほぼ垂直に取付けてください。
- フネン吸気弁を排水立て管の頂部に設置する場合、床面より1m以上で、かつ最上階における最高位の器具あふれ縁より150mm以上の高所に設置します。
- フネン吸気弁を排水横枝管に設置する場合、通気管の取出し位置は最上流の器具排水管を排水横枝管に接続した直後の下流側としてその階における最高位の器具のあふれ縁より150mm以上の高所に

設置します。

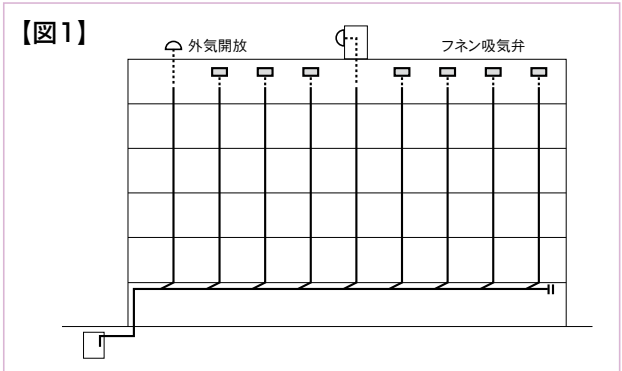
- フネン吸気弁FP AV125タイプのみ市販塩化ビニル管継手のソケットに直接接着してください。
※ JIS K6739 (排水用硬化塩化ビニル継手) に適合。
- 排水用の鋳鉄管や鋼管に取付ける場合、市販の継手 (バルブソケットなど) を使用して取付けてください。

※最下階の排水は単独にしてください。
※正圧区域でのご使用はおやめください。



- 排水横主管は個々に排水柵に配管してください。やむを得ず、一本の横主管に3本以上の排水立て管が接続される場合、排水立て管の一部を外気に開放してください。(図1)

1本の排水横主管に接続される排水立て管の本数	1~2	3~6	7~12	13~18
外気開放にする排水立て管の本数	0	1	2	3

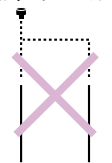


● 使用できないシステム

1. フネン吸気弁は伸頂通気管ごとに設置して下さい。複数の伸頂通気管を頂部で接続する通気ヘッダー方式での使用はお止め下さい。(図2)
2. 汚水槽などの槽類の通気管は逃し通気管が原則となっております。逃し通気の機能がないフネン吸気弁を使用しても効果がありません。(図3)
3. 吸気弁に内蔵しているゴムシール (EPDM) は、ガソリンのような揮発性油や溶剤に非常に弱い材質です。製品寿命が極端に短くなることがあるので、特殊排水系統では使用しないで下さい。

【図2】

通気ヘッダー方式



伸頂通気方式

【図3】

